

1 日目の祈り 2011/03/13 (日) 0:44

わたしたちのからだはあなたの宮です。

わたしたちの内にあなたの聖霊が宿る。(I コリ 3 : 16)

わたしたちのこの肉、このからだ、この世の性質そのもの現れであるこのからだ、あなたが来て下さったことによって、あなたの宮へと変えられた！

わたしたちはいま恐れの中にあります。

疲労と不安の中にあります。

怒りに襲われる者もいます。

悲しみ、虚無、絶たれた希望、失われた平安な生活。

わたしたちのからだは痛んでいます！

苦しんでいます！

おびえています！

疲れています！

緊張しています！

順番を待っています！

秩序と助け、暖房と食事を求めています。

多くのものが、あまりにも多くのものが、失われ、埋め尽くされ、破壊され、押し流されました。

この上さらに新しく降りかかって来る恐怖の予兆すらあります！

しかし、どうぞあなたが、わたしたちの気を確かに持たせてください。

いかにベヘモットとレビヤタン(ヨブ 40) が暴れても、あなたは、怪獣どもを従わせて、この世を創造されたのです！

この世はベヘモットとレビヤタンのものではなく、あなたが造られたのものです！

あなたがあなたの聖霊をわたしたちに送り、わたしたちの気を確かにさせ、あなたの力と秩序と愛とを見ることが出来るようにさせて下さい。

あなたの霊なしには我らの目は曇ったまま、震えたままです。

しかしあなたは御子と共に霊を送って下さった！

そしてわたしたち自身をあなたの聖なる宮として下さった！

今ここにあなたの宮がある。

「わたしたちが、生ける神の宮である！」(II コリ 6 : 16)

主の日、主の礼拝の日、被災地におられる一人一人を、あなたがあなたの宮となし、成すべきことを成させてくださいますように！

それが礼拝でも、それが寄り添うことでも、飲み水を取って来ることでも、手をあたたためてあげることでも、話を聞いてあげることでも！！

聖霊の豊かな祝福を祈り求めます。

主の御言葉が他でもないこの地上で実り、キリスト者によって御言葉が生きられる豊かさを感謝します。

我らの救い主、天地の創造にあつて水を治めし者、我らを宮とし中に住まわれし御神、万軍の主にしてあがない主、御名によって祈ります、アーメン。

2日目の祈り 2011/03/13（日）23:33

我らは神のかたちに創造され、いのちの息を鼻に吹きいれられました。

我ら一人一人があなたの息を宿す神殿です。

その神殿に、あなたは、「あなたに問い、あなたを糾弾しもする、自由な内面」を造って与えて下さいました。

我らは言葉と自由とを賜りました。

我らは言葉と自由とを誤って用い、罪を犯すことがあります。

（そのために我らはエデンの園を追われました！）

しかしまた、我らはあなたに頂いた言葉と自由とを用いて、あなたの期待に応えることが出来ません。

（あなたは我らに、万物を治め（創1:26,28）、罪を治めること（創4:7）をも求められました。）

主よ、あなたは我らの祖先があなたの園を出る時、皮の着物を造って着せて下さいました。

しかし、あなたが我らの守りとして与えて下さったはずのこの「守り」を撃つことを、あなたがサタンに許したとする、恐るべき物語も我らに伝えられております！

サタンはヨブの皮膚を撃ち、ヨブの友人たちは「皮膚撃たれるのは咎あるため」とヨブを攻めました。

ヨブは友人たちの因果応報思想に抗い、あなたに「なぜ咎無く試練を与えるのか」を問いました。

そしてあなたもまた、ヨブの友人たちの因果応報思想を退け、「神の義を問うたヨブの問い」を「よし」として下さいました。

ヨブは「東」に生きた先人です。我らもまた異教の地、東の果てに住んでおります！

我らにヨブの物語を伝えて下さった主よ、我らがヨブのように問うことを許して下さい！

「なぜですか？」

「いつまでですか？」と。

あなたがアダムとイブを守り、ヨブを守ったように、また荒地でモーセの民を守ったように、今こそあなたの民を守って下さい。

破れそうな皮の衣の内側に、あなたが、絶えずいのちの息を送りこんで下さい！

わたしたちの目は見えるものに視線を奪われ、体を落ち着けることも出来ません。

けれどもわたしたちは、あなたの言葉を聴くことにより、目に見えないものを見、我らのからだがああなたの霊を収める神殿であることを見えています。

あなたが死を滅ぼす復活の業を私たちにを見せて下さったからです！

恐ろしい患難のただ中であっても、あなたが創造の主であり、義なる方であり、私たちを滅ぼそうとするものに打ち克つあがないの主であることに変わりはありません。

わたしたちは、「キリストによりいま立っている」この恵み（ロマ5：1）を知っています！

主の御名によって祈ります。アーメン。

3日目の祈り 2011/03/14（月）21:43

主よ、我らの先人は、福音が告げられた時、「そんなはずはない」と失笑したということです。しかも咎められるのを恐れて「笑っていません」と取り繕いますが、「いやあなたは笑った」とあなたの御使いにびしゃりとたしなめられた。

なんとユウモアに溢れた話でしょう！

アブラハムにサラの子が産まれるかどうかは、主の約束された契約が果たされるかどうかがかかった要石でした。

その要石がいよいよ実現すると告げ知らされた時、サラは「そんなはずはない」とこれを疑い、笑ったのでした！

ああ、なんと恥ずべき笑いでしょう！

神が約束を果たして下さるといふ大事な知らせを笑うとは！

聖書はこの失敗を隠しません！

この物語は今日に至るまで伝承されており、子どもたちですら、よく知っております！

しかし聖書は不思議です。

サラが罰されたとはどこにも書いてありません！

「いやあなたは笑った」と、不信仰と偽証とを咎められただけ。

*

主よ、あなたは、あなたが私たちと交わして下さった契約の実現を告げ知らせて下さった時、
我らが疑い、笑いすらしたにもかかわらず、
激怒して契約を破棄することはなさらず、
約束通り約束を果たして下さいました！

あなたの御使いの咎め立ては、
滅ぼすための裁きではなく、
許して生かすための裁きでした！

*

時満ちてサラに約束の子が生まれ、サラはこの子に「笑う」という名をつけました。
これまたなんとユウモアに溢れた名づけ方でしょう！

サラは万能の神の力を疑ったことを恥じ、「もう取り繕うことをしない」、「嘘をつかない」と
いう決意を込めたのでしょ。う。
これはサラの悔い改めと信仰告白でしょう。

しかしサラは年老いてから子をもうけて、本当に嬉しかったのです。
しかもこの子は約束の子。

約束だけがあり、子が産まれないでいた長い間、サラはどんなにこの約束のために苦しんだこと
でしょう！
乾いてくる皮膚、深くきざまれてくる皺、たるんでくる肌。その労苦は、この約束の故でもあっ
たのに！

だからこそサラは遅すぎた知らせを笑ったのでした！
「もう無理」、「いまさらなに」、「そんなこと出来るわけない」

しかしサラは恵みを得ました。
それで、サラの顔には自ずと笑みがこぼれてくる。
くたびれた手、しわくちゃの顔、ひとつひとつの乾いた皺の中を、荒れ地に沁み入る水のように、
内側から湿らせてくれる温かい水！
干上がった舌が湿りけを帯び、こわばった口元がゆるみ、ゆっくりと時間をかけてよみがって来
る生气。
この笑みは、サラが主の恵みを受けた証です！

サラはあなたを侮った！
なのにあなたはサラを侮らなかった！
それでサラは「笑み」を得た！

*

物語は続きます。
神は与えたもうイサクを取り上げようとなさいます。アブラハムはこの試みに従順に従いました。
ここにはユウモアは感じられません。ただシリアスさだけが支配しているように思います。

今宵はアブラハムに与えられた試練のシリアスさの前で、サラと神との間にユウモアあふれるやりとりがあったことを思うに留まりましょう！

実現しない約束とともに暮らすことに疲れ、古い、
「希望があなたのところに来た」と知らされても、
「そんなことは起こりっこない」と一笑にふしたサラ。

どんなに多くのサラが今ここにいることでしょう！
年老いたサラも、年端のいかない若いサラも！

ああ、しかし神は、サラに「笑い」を下さいます。
外から押し付ける笑いではなく、本当に顔の皮膚の内側からしみだして来る、喜びによる笑み！
長く笑うことのなかったサラが、今やっと「笑い」を得る！

主よ、どうぞ40万人ものサラたちに、
サラのあの「笑い」をもたらして下さい！

我らには約束の子の誕生が必要です！
我らには奇跡が必要です！
何度でも、何度でも、何度でも！！

*

「笑う」という名のなんと誇らしく、何と仕合わせなことでしょう。
なんとあからさまな罪の告白、悔い改めであることでしょう。

主よ、あなたの慈しみなしには、我らは告白出来ません。

あなたを神と認めなかった罪を、
あなたをこそ神と認める信仰を。

老いたるサラの子の子孫にして、乙女マリアの子、我らの救い、奇跡の子、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

4 日目の祈り 2011/03/15 (火) 23:37

「あなたの年はいくつか？」

「わたしの人生は短く、ふしあわせで、わたしの先祖たちには及びません。」

難民ヤコブはエジプト王に問われてこう答えました。(創 47 : 7-10)

ああ、なんと不思議な会話！

あなたが祝福し、あなたの民イスラエル 12 部族の父祖となった族長、ヤコブ。

しかし彼はどんなに辛い人生を背負ってきたことでしょう！

ヤコブは父イサクに伝わった神とアブラハムとの契約の祝福をだまし取りました。

彼は約束の地を逃れざるを得ず、川向うで辛苦して財を成しましたが、その地に留まることも得ず、約束の地への帰還を目指して脱走しました。

約束の地に戻ってから後には、子らの諍いを収められず、自分の子らに騙されて、愛するヨセフが獣に殺されたと嘘をつかれ、ヨセフを失った悲しみに暮れ、さらに飢餓に襲われ、他の子どもまでも人質に取られ、やむなく約束の地を離れ、難民としてエジプトに赴いたのでした。

ヤコブが自分の人生をふしあわせだったと振り返っても不思議ではありません！

ヤコブが約束されたはずの祝福は、一体どこにあるのか？

しかし、ああ、なんと不思議！

エジプト王パロとの会見で、相手を祝福したのはこの難民の族長ヤコブの方でした！

ヤコブの目には、自分の人生が、どんなに落ち着いた秩序あるものから遠く、せわしなく「行きたくないところに連れて行かれ (ヨハ 21 : 18)」るばかりのものだと見えたとしても、しかし、神の祝福はヤコブの内にある！

一難民がエジプト王を祝福するという仰天の振る舞いが、私たちの目にはどんなに滑稽でも、ヤコブは自分の振る舞いに一片の疑問も抱かず当然のこととして、相手を祝福しています！(聖書記者は「ヤコブが」祝福を与えたことを読者が誤解しないように、同じことを 2 回記述して注意を喚起しています！)

ヤコブが祝福されたはずの祝福は、今ヤコブと一体となって、祝福を与えるヤコブの中に聖霊として現臨している！

神がヤコブに与えた祝福とは何だったか？

「わたしはあなたと共にいて、あなたがどこへ行くにもあなたを守り、あなたをこの地に連れ帰る。わたしは決してあなたを捨てず、あなたに語ったことを行うであろう。」(創 28 : 15)

ヤコブの目には、ヤコブの人生はふしあわせだったかもしれませんが。しかし、私たちはいつかヤコブに話しかけることが出来るでしょう。

「いいえ、あなたは恵まれていました！

エジプト王パロをあなたが祝福したことをお忘れですか？

創世記の記者ときたら、後世の読者が「祝福したのはパロのはずだ」と誤解しないようにわざわざ2回も同じことを書いてくれてるんですよ。

祝福したのはあなたの方だって！」

アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神よ！

あなたのヤコブ達を力づけて下さい！

たとい今は自分の人生をはかなむ気持ちが強まってしまっても、神の祝福を隣人に与える権能は、あなたが選び、祝福を与えたヤコブたちのものです！

アーメン。

5日目の祈り 2011/03/16 (水) 21:37

主よ、ヨブは、あなたが必ず応えてくださるはずだとの確信を持ち続けました。

あなたが地上で応えてくれないなら、あなたは黄泉で応えてくれるはずだと考えました。

聖なる神が、黄泉に下る！なんと大胆な！

あなたが、死者の味方となるために、地の底に下って来られる！

ヨブは古代世界の常識を破る新しいビジョンを打ちたて、我らにそれを伝えてくれています。

(ヨブ 19 : 26-27)

*

あなたはエゼキエルに問いました。

「これらの骨は生き返ることができるか？」

「主なる神よ、あなたのみがご存知です！」

エゼキエルの答えは秀逸です。

われらの経験するところに抛れば、骨はよみがえりません。
が、あなたには出来る。それはあなたのみをご存知です。

あなたは言われました。

「これらの骨に向かって説教せよ。」

エゼキエルは語りました。

「枯れた骨よ、主の言葉を聞け。」

『見よ、わたしはお前たちの中に霊を吹き込む。

するとお前たちは生き返る。

わたしは、お前たちの上に筋をおき、肉をつけ、皮膚で覆い、霊を吹き込む。

するとお前たちは生き返る。

そしてお前たちはわたしが主であることを知るようになる。』」 (エゼ 37 : 1-6)

*

箱舟の甲板から姿を消した人々は、海に落ちたわけではないでしょう。
彼らは喫水線より下の階に移されただけだという、天使のうわさを伝える者がありますが、本当らしいうわさです。

箱舟の喫水線から下の階に何があるのか、われらの目には見えません。

けれども、そこにいくつもの骨が安置されているのは確かでしょう。

この箱舟はいまやすべての被造物を載せているはずですから！

生きてる者は甲板での救助に忙しい。

第一甲板でも、第二甲板でも、第三甲板でも、ありとあらゆる種類の、何人もの働き手たちが、何人ものこどもたち、老人たち、女たち、男たちを捜し、介抱し、支えようとしている。

艦橋では、国や自治体の政治家たちや官僚たち、また技術者たちが、あわただしく相談を繰り返し、忙しく指示を伝えている。

海上には、友軍の船や、ヘリコプターの音も聞こえている。

われらの箱舟に、いまや世界中の目が注がれており、何十万、何百万もの手が、国の内外から差し伸べられています。

しかし見よ、箱舟の中を下っていく者がいる！

ただ一人、喫水線より下の階に下って行けるお方。

骨に語り、骨に息を吹き込んでくださるお方。

自ら黄泉に下り、3日目によみがえったお方。

あの方が、下の階に移されてくる何体もの骨の面倒を見てくださる！

われらは甲板の上に仕事に忙しい。

「神はどこに行かれたのか？」と問いたくもなる。

神は働いておられる。

生きてる者と共に甲板の上でも、

喫水線の下眠った者たちの間でも。

ああそうだ、問われているのは我々の方なのだ。

「あなたはどこにいるのか？」と（創3：9）。

われらに見えないところでも働いておられる主よ、

この困窮にあってなお隣人愛に生きるありとあらゆる種類の働き手たちに、知恵と勇気と忍耐と、力と物資をお与えください。

慰めを必要とする人のそばにいながら言葉を失っている慰め手に、あなたの言葉をお貸してください。

われらは、死者の復活については、あなたにお任せするほかありません！

主イエス・キリストによって祈ります。アーメン。

6日目の祈り 2011/03/17（木） 20:36

主よ、弱り果てている人の祈りをお聞きください。

主よ、責任を果たさなければならない人の祈りを聞いて下さい。

主よ、行動を起こしている人々の祈りをお聞きください。

主よ、言葉を失う状況を目の当たりにして立ちすくむ人に、祈りの言葉をお与えください。

*

主よ、祈りをかなえて下さい。あなたの御名による祈りを。

祈りよ、乞い願った物を在らしめよ！

—薬、毛布、ガソリン、灯油、離乳食、おむつ、マナ…

祈りよ、乞い願った力を在らしめよ！

—知恵、勇気、忍耐、決断、愛…

祈りよ、こう命じるのは、嵐を静める主の御名である！

*

あの日も今日も、我らは「向こう岸」を目指して、主と共に船に乗っている。

主が眠られている間に嵐になり、波にのまれそうになり、我らは主に近寄って主を起こし、

「主よ、助けて下さい」と乞い願う。

主は言われた。

「なぜこわがるのか、信仰の薄い者たちよ！」 (マタ 8 : 23-27)

あの日、我らは主の力に驚くばかりで、主に問われたことを受け止めなかった。
主は我らの不信仰を咎められたのに。

我らに奇跡が起こせるだろうか？

一起こせる、山をも動かせるであろう！ (マタ 17 : 20)

*

ひるむ者よ、

あなたの信仰がなくならないように主イエスが祈ってくれている！ (ルカ 22 : 32)

行動する者よ、

あなたの手を主が必要としておられる！

たとい手元にパンが2つ、魚が5匹しか得られなくても、
主はそこから5千人分の食事をとりだすことが出来る。

しかし、主は我らの手を必要とされる！

「あなたがたの手でやりなさい！」と。

奇跡を起こすのは主！

奇跡を届けるのは我々！

王であるのは主！

王の即位と到来を告げるのは我ら伝令！

*

あなたの御名のもとに、重荷を背負うてうずくまるものはかくまわれ、
あなたの御名のもとに、隣り人の十字架を背負おうと馳せ参じるものは力を得、
弱い者も、力ある者も、あなたの民として、あなたの恵みに与りますように！
主イエスキリストの御名によって祈ります。アーメン。

7日目の祈り **2011/03/18 (金) 22:56**

タメ息、セキ、不安、不満…

こらえても、隠したくても口から漏れ出て来てしまうものを安心して吐き出させて下さい。

主よ、我らの嘆きをあなたが聞きください。

「あなたにたっぷり聞いていただかないと！隣り人たちには聞かせられないので！」と言う、志を高く保ったまま困難な仕事を続けている、小さな群ごとの裁き司たち、士師たちの、こぼれ落ちる想いと、それをこらえようとする想いのせめぎ合い！

心積りも訓練も装備も備蓄もないままに、突然、
それぞれがいた場所で、
裁き司の役割を引き受けざるを得なかった人々！
心積りも訓練も知識もないままに、思いがけず、
隣りにいる人の
慰め手、祭司の役割を負うことになる人々！

主はそれぞれの現場にペテロを必要とされ、言われます。

「私の羊を養いなさい！」

*

ペテロはエキスパートでもエグゼクティブでもありませんでした。
あなたの選びはまことに不思議で人がそれまで蓄えてきた備えをあてにしません。
ただあなたが選び、場に立たせ、役を与える。
たとい我々の目にはどんなに不意打ちに思えても、あなたがわたしたち一人一人に割りつける役割は、あなたの選びに基づいています。

ペテロがどんなに熱心に、しかしあたふたと滑稽に、その役を務めたか。
我らは聖書を通じてそれを知っております。

ペテロがどんなに恐ろしい困難に襲われるか、あなたはよくご存知でした。
あなたはペテロに言われました。

「シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。(ああ、なんたること！)

しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。

それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。(ルカ 22:31-32)

そうです、祈ったのは選ばれたペテロの方ではなく、選んだあなたの方でした！

*

あなたは選ぶ。

我々は不意を打たれ、うろたえ叫ぶ、「この杯は飲みたくない！」

けれども主ご自身が我らの先に祈っておられた。

「アバ、父よ、あなたにできないことはありません。

どうかこの杯をわたしから取りのけてください。

しかし、わたしの思いではなく、みこころのままになさってください」。 (マル 14 : 36)

「神にはできないことはない」と心から神に信頼し、そう語れるのは、神ご自身です。

我らは不信仰ゆえ「我らの経験に照らすと、これは神にもできないかもしれない」と考えます。

そしてタメ息をつき嘆く。

だからこそ我々は聞かせていただくことが必要です。

我らの思いを打ち破る、あなたにだけ語れる「外からの言葉」を。

*

アダムの息子、エバの娘は、皆あなたの僕です。

どんなに幼くても、どんなに老いていても、あなたの肢体の一部です。

どんなに小さな現場でも、どんなに離れた現場でも、それぞれの現場にあなたはあなたの弟子を見出し、雇い、働き手とするでしょう！

不意を打たれたにわか仕立ての弟子たちが、慌てふためき、青息吐息となりながらも、あなたの送りこむいのちの息に生きることができ、あなたの務めを果たすことができますように！

そうですとも！

あなたが人間に授けて下さった呼吸のしくみは、人があなたと語るのに、なんと相応しく出来ていることでしょう！

内側にたまる濁ったものをあなたに向かって吐き出すと、

あなたが吹き込んで下さる聖霊を、吸い込む余地がそこに空く。

主よ、胸のうちにとめどなくたまるものを、あなたに向かって吐き出させてください！

あなたに向かって嘆かせてください！

幾千の現場のペテロたちに、詩編の詩人の嘆きの言葉を貸してください！

しかしまた、その時に、我らの内からは出てこない、あなただけが語れる福音をお聞かせ下さい。

しもべは聞きます。お話ください。 (サム上 3 : 10)

お言葉どおり、この身に成りますように。 (ルカ 1 : 38)

金曜日、あなたがペテロのために祈り、十字架に架かって下さった日の夜に、主の御名によって祈ります。アーメン。

8日目の祈り 2011/03/20 (日) 1:32

吸い込みます、吸い込みます、あなたのいのちの息を。
五臓六腑、痛む筋のすみずみに行きわたるまで！

思いめぐらします、思いめぐらします、あなたのいのちの言葉を。
あなたの言葉が分るまで！

*

主よ、我らの「実感リアリズム」を打ち破って下さい。
我らの「外なる人」は目と耳を、目に見えるもの、耳に入るもので覆われて暗くなり、
おびえ、いらだち、訴え、ヒトのホンネをむき出しに、口に、態度に、載せ始めています。

主よ、我らを「聖霊のリアリズム」、「聖書のリアリズム」に立たせて下さい。
御言葉により「内なる人」を鍛え、
あなたのかぐわしい香りによって「外なる人」を落ち着かせてください。
「内なる人」を日々新しくして下さい。
「内なる人」が「外なる人」を支えるようにして下さい。
「たといわたしたちの外なる人は滅びても、内なる人は日ごとに新しくしていく。
だからわたしたちは落胆しない！！」という使徒の言葉を、私たちの口に入れて下さい。 (2
コリ 4 : 16)

使徒は世々の教会、代々の教会に、手紙を書き、送り続けています！
「たとい『外なる人』がどんなに弱っても、
——それは目に見えるリアリティではあります！我々はそれを直視しなければなりません！
——

にもかかわらず、我々は落胆しない！」と、
「我々はキリストと共に死に、キリストと共に生きている！」と、 (ロマ 6 : 3-8)
しかも、「あなたがたは自分自身が、わたしたちから送られたキリストの手紙である」と！
(2コリ 3 : 3)

主よ、使徒の言葉が「この身に成りますように！」 (ルカ 1 : 38)

*

「わたしたちの地上の幕屋がこわれると、(ああ、その通りなのです！家々も、朽ちる身体も！)
神からいただく建物、すなわち天にある、人の手によらない永遠の家が備えてあることを、
わたしたちは知っている。
そして、天から賜うそのすみかを、上に着ようと切に望みながら、

この幕屋のなかで苦しみもだえている。

それを着たなら、裸のままでいないことになろう。

この幕屋の中にいるわたしたちは、重荷を負って苦しみもだえている。

それを脱ごうと願うからではなく、その上に着ようと願うからであり、

それによって、死ぬべきものがいのちにのまれてしまうためである。」 (2 コリ 5 : 1-4)

そうです！

我々は我々の身体を脱ごうとするのでなく、他でもない十字架を背負うこの身の上に、上から来る新しい復活の身体を着ることを切に望んでいる！！

使徒は手紙をこう続けております。

「わたしたちを、このことにかなう者にして下さったのは、神である。

そして神はその保証として御霊をわたしたちに賜ったのである。

だからわたしたちはいつも心強い。」 (2 コリ 5 : 5-6)

使徒は、我らの壊れやすく、傷つきやすく、疲れやすく、痛みやすい朽ちる身体だけが、我らのリアリティではないことを示してくれています。

現在は、あなたの吹きこんで下さった聖霊が、内側から、

「内なる人」となって「外なる人」を支えてくれます。

そして来るべき日には外側から

「この朽ちるものは必ず朽ちないものを着、この死ぬものは必ず死なないものを着ることになる！」 (1 コリ 15 : 53)

*

あなたは黙示録の記者にはさらに大胆なビジョンを見せ、それを記させました。

「神の幕屋が天から降りて来る！」

「神が人とともに住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、

人の目から涙を全くぬぐいにとって下さる。

もはや死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。」 (黙 21 : 1-5)

あなたはすでに預言者に同じビジョンを見せておられました！

あなたはすべての民を集めて祝宴を張られる！

すべての民のかぶっている顔おおいと、すべての国のおおっているおおい物とが破られる！

(死者のかぶっている顔おおいも取り除かれる！

我らの国をおおっている災厄と患難も破られる！)

「主はとこしえに死を滅ぼし、主なる神はすべての顔から涙をぬぐう」

「その日、人は言う

『見よ、これはわれわれの神である。

わたしたちは彼を待ち望んだ。

彼はわたしたちを救われる。

これは主である。

わたしたちは彼を待ち望んだ。

わたしたちはその救いを喜び楽しもう』と」。 (イザ 25 : 6-9)

預言者と黙示録記者とにこのような希望を授けて下さったのはあなたです！

しかもこの希望の出来事は、いつか来るかわからないあてなく待ちつづけなければならない遠い日の出来事ではありません！

すでにその日は来ました！

預言者の待ち望んだ主は来た！

黙示録記者が描いたインマルエルの幕屋は、すでに地上に降りました。

それどころか、我らの間に住み、

歩きまわり、訪問し、招き、語り、力になり、

「わたしの羊を養いなさい」と命じられました！

使徒は世代（よよ）の教会の兄弟姉妹たちに書き送っています。

「死は勝利にのまれてしまった。

死よ、おまえの勝利は、どこにあるのか？

死よ、おまえのとげは、どこにあるのか？」

「死のとげは罪である。罪の力は律法である。

しかし感謝すべきことには、神はわたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちに勝利を賜ったのである。

だから、愛する兄弟たちよ。

堅く立って動かされず、いつも全力をそそいで主のわざに励みなさい。

主にあっては、あなたがたの労苦がむだになることはない、あなたがたは知っているからである。」 (1 コリ 15 : 55-58)

*

主よ、我々には労苦があります。涙も、死も！

われらがあなたに土から創られ、朽ちる身体を持ってこの世に置かれ、

万物と罪とを治めよと命じられた以上、労苦と涙と死は避けられません！

けれどもそれだけが我々のリアリティではない！

あなたはインマヌエルの言葉たるキリストを我らの間に住ませ、語らせ、
我らにあなたの霊を送って下さいました。

あなたは預言者と使徒とを送り、世代（よよ）の説教者を鍛えてあなたの言葉を語らせ、
我らを養って下さいました。

主よ、我ら「御言葉に仕える者」が、「自分で実感でき信じられることだけを語る」という禁欲
を良しとして「小さな福音」の語り手となってしまうないように、わたしたちを鼓舞し、大胆に
語る勇気をお与えください。

あなたが最近送ってくださった御言葉の教師の一人は教えてくれました。

「使徒が、そして預言者たちが証言してくれていることを説教すればよい。」

しかし彼は使徒や預言者たちと我々とを異なる者としたわけではありませんでした。

「使徒と預言者たちに神の言葉がどのように出来事になったかを説教していれば、それは私にも
出来事となるのである。」

主よ、あなたは、私たち「より小さい者」にも、大使徒や大預言者たちと同じ務めを託された！
神はほむべきかな！

神は、創造主であられるのに、我々被造物、罪ある者、朽ちる身体に造られた者の働きを必要と
される！

*

主よ、我らはこの朽ちる身体に留まるからこそ、この世に属し、我らの隣り人と出会い、交わり
を築くことが出来ます。

主よ、あなたは我らが、

この朽ちる身体に、あなたのいのちの息を吸い込み、

この朽ちる口で、あなたのいのちの言葉を覚え、

慰めを必要とする者の傍らに立ち、

言葉を失った人々にあなたの言葉を取り次ぎ、

希望を見失いがちな人々にキリストの香りを伝えるよう、託されました！

主よ、み言葉に仕える者を祝して下さい！

牧師たち、教会学校の教師たち、学校・幼稚園・幼児園の教師たち、保育園の保育師たち、家庭
の父母たち、教会の長老・役員たち、神学校の学生たち、そしてそれぞれのコミュニティーの裁
き司たちと支え手たち。

主よ、み言葉による交わりを祝して下さい！

祈り合う群れの一人ひとりの祈りが、あなたの言葉を借り、あなたの力を得て、隣り人の助けに

なりますように！

インマヌエル！主、我らとともにいます！アーメン！

9日目の祈り 2011/03/20（日）17:23

すると、彼らはマリヤに、「女よ、なぜ泣いているのか」と言った。マリヤは彼らに言った、「だれかが、わたしの主を取り去りました。そして、どこに置いたのか、わからないのです」。そう言って、うしろをふり向くと、そこにイエスが立っておられるのを見た。しかし、それがイエスであることに気がつかなかった。イエスは女に言われた、「女よ、なぜ泣いているのか、だれを捜しているのか」。 （ヨハ 20：11-15）

主よ、マグダラのマリヤは「あなたの朽ちる身体」を探していました！

ええ、そうですとも！あなたは神の子なのに朽ちる身体を持っておられた！

もしそうでなかったら、わたしたちはどうやってあなたのことを知ることができたでしょう？！
あなたが目に見え、聞こえる声を持ち、触ってさえくれ、わたしたちと共に飲み食いをされたことを感謝します！！

主よ、マグダラのマリヤはあなたのその身体を探して、それが消えたことを知り、とりみだしておりました！

「誰かが、わたしの主を取り去りました！

どこに置いたのか、わからないのです！」

「置いた」ですって？ ああ、あなたは動けない死体ではないのに！

あなたは墓を出ました！あなたは墓の中でではなく、墓の外で生きておられる！

再びわたしたちと共に生きておられる！今や、朽ちる身体ではなく、朽ちない身体で！！

主よ、あなたの姿に頼らずに、あなたの香りで、あなたが生きて働いておられることを知る賢さを与えて下さい！

あなたはあなたの言葉が語られるそのところにおられます！

主よ、御言葉に仕える教師たちの耳と口とに、あなたの言葉をお入れください！

主よ、御言葉に仕える働き人たちに、あなたの聖霊を注ぎください！

主よ、御言葉に飢える人々の魂に、決して乾くことのない水を飲ませて下さい！

涙で曇っている人々の目を乾かせて下さい！

主よ、あなたの民をお救い下さい。

そのために、あなたの「使い」をお遣わし下さい。

主よ、どうかあなたがあなたの言葉で、あなたの「使い」を「しぶとく」「落胆しない」働き手として鍛えて下さい。

元迫害者の使徒は、死にかかっているように見える時でも、「見よ、生きおり」（2コリ6:9）と、その患難に拮抗することが出来ました。

虚勢ではありません、あなたの復活に与ったからです！

涙にくれていたマグダラのマリヤもまた、あの日復活の主にお会いして、変えられました。

死に勝利したあなたの復活を伝える世代につづくリレーの第一走者としてあなたが選んだのは、このマリアでした！

ほむべきかな！あなたご自身がマグダラのマリアの涙を全くぬぐいとって下さいました！

あなたのなさることはわたしたちの思いを越えています！

思いがけない人を選び、思いがけない「使い」に用いられます！

備えなき者も、はみ出していた者もがあなたに用いられ、あなたの肢体の枝のひとつとなって動き出します！

新しい一週間が始まりました。艱難は引き続き続くでしょう。

しかしわたしたちは復活の主の礼拝に与りました！国と力と栄との本当の主（あるじ）はあなたです！

あなたが、この艱難に対抗するのに必要なものを、集め、与えて下さいますように！

死をも滅ぼす復活の主、わたしたちの群の真の牧者、イエス・キリストの御名によって祈ります。
アーメン。